

【R7.3.11専門部会終了時点】

今後の主な対話項目28項目の水資源関連6項目のうち、対話完了は**4項目**、対話中は**2項目**

区分	主な対話項目	進捗状況
1 静岡県内の山梨工区工事中の県外流出量の全量戻し	(1) 田代ダム取水抑制案 ・実際の運用サイクルやオペレーションの詳細(県外流出量の測定方法を含む) ・冬期に発電所を停止する場合の対応(東京電力RPとの協議結果)	○
2 リスク管理	(1) リスク管理 ・リスク管理の手法(リスクマトリクス、リスクマップを使用) ・予測の不確実性を低減するため、調査結果(ボーリングや湧水の化学分析結果等)を踏まえたリスク評価の検証と見直し	○
	(2) 田代ダム取水抑制案について ・ 取水抑制できない状態が継続する場合の対応 ・突発湧水など不測の事態への対応(連絡・協議体制など) ・取水抑制するための水量が不足する不確実性への対応(湧水期を避けた施工の検討)	△
	(3) トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策について、突発湧水等のリスクへの対応	○
	(4) 山梨県内の高速長尺先進ボーリング、先進坑、本坑の掘削により健全な水循環への影響が懸念されることへの対応について、科学的な説明と本県等との合意(高速長尺先進ボーリングが、県境から山梨県側へ約300mの地点に達する前)	○
3 モニタリング	(1) 2(1)を踏まえた、具体的なモニタリング計画(モニタリング項目、 実施箇所 、 実施頻度 、 監視体制 、 公表時期 、 理解しやすいデータ公表の手法 等)	△

進捗欄:○は対話完了、△は専門部会で対話中、-は専門部会で次回以降対話に着手

1

今後の主な対話項目【トンネル発生土編】進捗状況

【R7.3.11専門部会終了時点】

今後の主な対話項目28項目のトンネル発生土関連5項目のうち、対話完了は**1項目**、対話中は**2項目**

区分	主な対話項目	進捗状況
1 発生土置き場	(1) 土石流、地すべり、深層崩壊等の大規模な土砂移動、濁水の流出、細かい粒子の底質への堆積などを想定し、生態系全体や景観への影響を考慮した 対策 ※ 仮に、発生土を有効活用する場合は、その活用案に応じた対策を追加で検討する必要がある。	△
	(2) 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、 設計 、 モニタリング 等)	△
	(3) リスク管理の手法とリスク対策(リスクマトリクス、リスクマップを使用)	-
	(4) ツバクロ発生土置き場について、以下の点を踏まえた、影響の予測・評価及びその対応 (ア)広域的な複合リスク(土石流の同時多発の可能性等) (イ)対岸の河岸侵食による斜面崩壊の発生リスク (ウ)土石流の緩衝地帯としての機能低下 (エ)予測のシミュレーション条件 (オ)ツバクロ発生土置き場の断層(推定)の影響	○ ※対応の詳細は(2)で今後検討する
	(5) 自然由来の重金属等を含む要対策土の処理 ※ 現在のJR東海の計画(要対策土を藤島に盛土)は、条例上、認められない。	-

進捗欄:○は対話完了、△は専門部会で対話中、-は専門部会で次回以降対話に着手

2